

国際交流

平成24年5月15日(水)に台南市立南寧高級中学校、土城高級中学校、私立崑山高級中学校3校の先生と生徒が来校されて、国際交流会を開催しました。台湾訪問団の人数は、教員8名、生徒23名合計31名、作新学院側は、教員13名、生徒43名が参加しました。午前中は各校の紹介や本校のSSHの取り組み、東日本大震災での支援活動などプレゼンを利用して紹介しました。スピーチや交流は英語を使ってコミュニケーションを図りました。国際語としての英語の大切さを再認識しました。



台湾から東日本大震災の支援として、義捐金や救援活動、チャリティー番組、激励のメッセージなどさまざまな支援を世界の中でもいち早くいただきました。本校の震災への取り組みの紹介とともに感謝のメッセージを伝えました。右の写真は、台湾の生徒が自分の学校を紹介しているところです。



午後は、台湾と本校の生徒混合で10グループに分かれ、科学交流としてトレース上を動くレゴロボットのプログラミングを行いました。英語で意見交換しながらプログラミングを行いましたが、身振り手振りも交えてコミュニケーションを取り合い、何とか完成にこぎ着けました。完成後、トレース上を一周するタイムトライアルの競技では、大変な盛り上がりを見せました。



科学交流で盛り上がりを見せた後は、文化交流として部活動の見学と体験を行いました。台湾訪問団の先生も生徒も来校前からとても楽しみにしてくれました。作新学院の運動部はどの部も一流で、全国で活躍しています。あいにくの雨でしたが、全員の方にとっても喜んでいただきました。



◆部活動見学コース

- 1, 2グループ：硬式野球⇒バスケットボール(女子)⇒体操⇒水泳⇒ボクシング⇒柔道⇒弓道
- 3, 4グループ：水泳⇒体操⇒バスケットボール(女子) ⇒ボクシング⇒柔道⇒弓道⇒硬式野球
- 5, 6グループ：柔道⇒ボクシング⇒弓道⇒硬式野球⇒水泳⇒体操⇒バスケットボール(女子)
- 7, 8グループ：弓道⇒硬式野球⇒水泳⇒体操⇒バスケットボール(女子) ⇒ボクシング⇒柔道
- 9, 10グループ：ボクシング⇒柔道⇒バスケットボール(女子)⇒体操⇒水泳⇒硬式野球⇒弓道

◆タイムスケジュール

| | |
|-------|--|
| 10:30 | ・作新学院代表として作新学院高等学校長挨拶 |
| 10:35 | ・台南市立南寧高級中学校長挨拶 |
| 10:45 | ・先生方の紹介 |
| 10:50 | ・記念品贈呈式 |
| 10:55 | ・作新学院高校生代表挨拶並びにSSH紹介と共同研究テーマ進捗状況の発表 |
| 11:05 | ・台湾生徒代表挨拶 |
| 11:20 | ・台湾から本校に入学した生徒の紹介 |
| 11:25 | ・台湾からの支援についてと東日本大震災での作新学院の取り組みの紹介 および震災支援について意見交換 |
| 11:40 | ・台南市 南寧, 土城, 崑山 各学校の紹介 |
| 11:55 | ・この後のスケジュールについて説明とグループ分け, テーブル移動の指示 |
| 12:00 | ・昼食・休憩 (台湾と作新の生徒で10グループに分かれてグループ単位で交流) |
| 12:45 | ・科学教育交流 (レゴロボット製作とプログラミング) |
| 14:20 | ・レゴロボットコンテスト (制作したロボットで競技会を開催) |
| 14:50 | ・文化交流 (校内見学・部活動見学) |
| 16:00 | ・交流会終了の挨拶 ・記念写真撮影 |

台湾学生とロボット作り

作新学院高校が招き交流

宇都宮市の作新学院高校で15日、台湾の学生を招いたロボットコンテストが行われた。

先進的な理数教育を行う高校を文部科学省が指定する「スーパーサイエンスハイスクールの事業の一環。台湾からは、日光への修学旅行などで本県にゆかりがあり、科学教育に力を入れている南寧高級中学校など3校の生徒が訪れた。



作新学院高校と台湾の学生がロボットコンテストなどで交流した

6、7人のグループごとに、黒色に反応して進む車型ロボットを製作し、黒線のルートを一周するタイムを競った。双方の生徒は作業中、英語を交えて「タイムが曲がっているから遅い

のでは」と相談したり、仲間の調整を「絶妙」とたたえたりして交流を深めた。優勝グループの作新2年菅原大和さん(16)は「英語でコミュニケーションをとる貴重な機会だった」と喜んでいた。東日本大震災についての討論も行われ、双方の生徒が原発問題などについて議論を交わした。

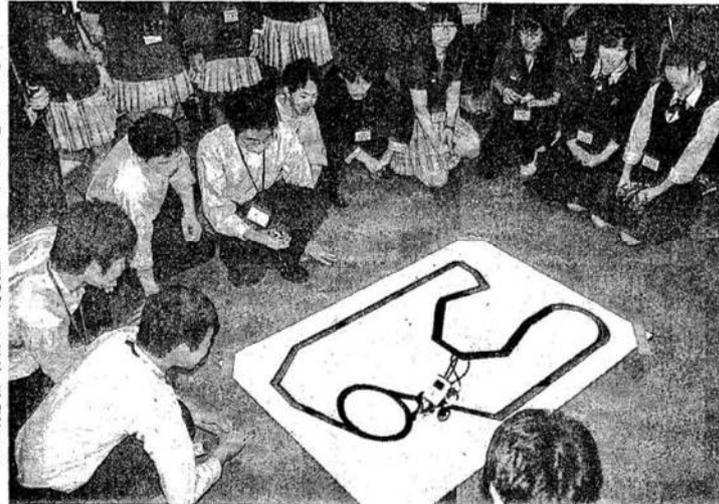
台湾の高校生と科学教育交流会

作新学院高

理科や数学教育に重点を置くスーパーサイエンスハイスクール(SSH)に指定されている作新学院高(宇都宮市、船田元学院長)の生徒と台湾の高校生との科学教育交流会が同校であった。SSHは文部科学省が02年度から導入。理数系の研究者や技術者の育成を目的に、同校は11年度から指定を受けている。作新学院の2、3年の男女43人と日光日台親善協会が紹介した台湾の高校生24人が参加した。会では、10グループに分け、英語でコミュ

ニケーション。その後、即興でコンピュータプログラムを作成し、三輪型ロボットでスピードを競った。作新学院2年の井沢賢人さん(16)は「互いに理解を深めるきっかけになった」と話した。

【加藤佑輔】



ロボットのコンテストを観戦する作新学院高と台湾の生徒ら。宇都宮市一の沢の同校で